

簡易版資料①

地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター 【令和3事業年度の業務実績評価】

◆法人による小項目評価

区分	判断基準
A	目標を大幅に上回って実施している
B	目標を上回って実施している
C	目標を概ね実施している
D	目標をやや下回っている
E	目標を大幅に下回っている

◆佐世保市による小項目評価

区分	判断基準
A	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（特に市が認める場合）
B	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	目標の達成のためにはやや遅れている
E	目標の達成のためには重大な改善事項がある（特に市が認める場合）

◆佐世保市による大項目評価

区分	点数	評価結果
A	5	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
B	4	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	3	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	2	目標の達成のためにはやや遅れている
E	1	目標の達成のためには重大な改善事項がある

◆佐世保市による全体評価

区分	点数	評価結果
A	5	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
B	4	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	3	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	2	目標の達成のためにはやや遅れている
E	1	目標の達成のためには重大な改善事項がある

●全体評価

C	概ね計画通りに進んでいる
82点 ÷ 25小項目 = 3.28点 ≒ 3点	

大項目	点数	小項目	平均点	評価
1 住民サービス等質の向上	51	15	3	C 概ね計画通り
2 業務運営の改善及び効率化	9	3	3	C 概ね計画通り
3 財務内容の改善	12	4	3	C 概ね計画通り
4 その他業務運営に関する重要事項	10	3	3	C 概ね計画通り
合計	82	25	—	

●評価まとめ (要点)

○大項目評価区分における「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「その他業務運営に関する重要事項」はすべてC評価となった。

○全体評価はC評価となり、佐世保市総合医療センターの令和3年度の業績評価は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。

○令和3年度の年度計画については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、関連する目標値の設定がなされているものの、その想定を超える新型コロナウイルス感染症の影響があった項目もあるなど、評価においてはその影響も一定考慮している。なお、評価に当たり特徴的であった内容は次のとおり。

医療体制：佐世保県北医療圏の中核を担い、一般診療を行いながら新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる一方で、救命救急センターとしては一般の重篤な救急患者を受け入れるなど、コロナ禍において関係機関等と連携して高度急性期医療の提供を行うことで、地域の基幹病院としての役割を果たした。また、宇久診療所及び黒島・高島両診療所において、常勤医師を確保し、離島の診療体制維持に努めた。

新型コロナウイルス感染症対応：感染症指定医療機関として病床を確保し、重症・中等症の患者を中心に受け入れるとともに保健所からの重症度判定やPCR検査などの要請に応えた。結核病棟では、前年度の2倍を超える新型コロナウイルス関連の入院患者を2,414名（延べ）受け入れ、関係機関と協力しながら地域の安全・安心を支えた。

高度専門医療：手術支援ロボット及びデュアルCTを導入するなど、域外に出ることなく高度医療を受けることができる環境を整備した。手術支援ロボット導入は長崎大学病院に続き2例目であり、適用術式を順次拡大した。総合医療センター内で高度医療に携わることができ、若手医師の育成などが図られるため、地域の医療水準を高めていくことが期待される。

財務・収支：令和3年度の収支は、純利益21億6千9百万円の黒字決算となった。この主な理由としては、新型コロナ患者受け入れのための病床確保などに対する補助金収入が対前年度比で増加したこと、また、コロナ禍で患者数が減少した中、施設基準の取得や在院日数の適正化により診療単価を伸ばしたことで医業収益が対前年度比で増加したことによる。一方、支出側では、医薬品、医療材料などの調達における価格交渉の徹底や契約手法の見直しを行うことで材料費・経費削減に努めた。経常収支比率や自己資本比率などの各財務指標に特段の問題はないものの、新型コロナが収束すると補助金収入がなくなるため、ポストコロナを意識した運営を行っていく必要がある。

大項目	1 住民サービス等質の向上		
小項目	1 5 項目 (B: 6 項目 C: 9 項目)		
合計点	51	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「-」は最終評価と同じ

小項目	法人	市 通常	市 最終	点数
① 地域完結型医療の推進	C	D	C	3
② 提供する医療サービスの充実 (救急)	C	D	C	3
③ 提供する医療サービスの充実 (がん)	B	-	B	4
④ 提供する医療サービスの充実 (小児・周産期)	C	D	C	3
⑤ 提供する医療サービスの充実 (高度専門)	A	C	B	4
⑥ 提供する医療サービスの充実 (政策医療)	B	C	B	4
⑦ 医療人育成体制の充実 (医師研修の充実)	C	D	C	3
⑧ 医療人育成体制の充実 (医療従事者育成の充実)	C	D	C	3
⑨ 医学研究の推進	C	D	C	3
⑩ 医療の質の向上 (施設・設備)	C	B	B	4
⑪ 医療の質の向上 (医療従事者確保)	C	-	C	3
⑫ 医療の質の向上 (患者サービス向上)	C	-	C	3
⑬ 医療の質の向上 (安全性の高い医療)	B	-	B	4
⑭ 情報提供の充実 (分かりやすい情報発信)	B	-	B	4
⑮ 情報提供の充実 (病院情報公開)	C	-	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ②「救急車・ヘリ搬送件数」は対前年度比で5.2%増加(2,967件→3,123件)した。また、重篤な患者の受入割合は、前年度同様に大きく伸びており(50.6%→54.2%)、救命救急センターとして、初期・二次の役割分担が図られている。
- ③認定遺伝カウンセラー修士課程修了者の配置と、遺伝カウンセリング室の設置を行い、がんゲノム医療連携病院の取り組みが進んでいる。
- ⑤提供する医療サービスの充実(高度専門医療)において、法人自己評価から評価者評価を下げている(A→B)。高度機器(手術支援ロボットなど)の導入により、地域完結型医療の推進に大きく貢献し、今後の若手医師の育成に期待がある一方で、指標として掲げている目標値においては、4項目が下回っている状況がある。したがって、令和3年度においては、高度医療環境の整備において大きな成果があったことは評価するものの、特筆すべき進捗状況にあるとは言い難いことから「B評価」としている。
- ⑥宇久診療所では4月から1名の常勤医師、黒島・高島診療所でも新しい常勤医師1名を確保し、島民が安心して利用できる診療体制を維持した。
- ⑩医療の質の向上(施設、設備の充実)において、法人自己評価から評価者評価を上げている(C→B)。上記事項と関連があるが、施設・設備整備の観点において、特に設備整備では、これまで佐世保県北医療圏において導入がなく、県内でも長崎大学病院のみにしか整備されていなかった「手術支援ロボット」の整備をはじめ、X線コンピュータ断層撮影装置(X線CT)の更新など、体制・環境整備においては、計画を上回った成果があり、地域完結型医療の推進や高度医療化に貢献があったものと評価し「B評価」としている。
- ⑬新型コロナウイルス感染症における院内感染を防ぐため、対策会議を随時開催し、感染対策の実施や行動規範の改定を行った。
- ⑬医療安全対策については、医療安全管理者養成研修の受講により、研修修了者が医師3名、看護師3名となり、体制の充実が図られた。

小項目評価抜粋（B評価以上又は法人評価と評価者評価に違いがあるもの）

小項目区分	法人	評価者 最終	評価者の評価内容
<p>③提供する医療サービスの充実（がん医療）</p> <p>【総 10～12P】</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、がん治療は入院から外来治療（通院）へのシフトが進んでいることから、入院患者は目標値を下回ったものの、外来化学療法や放射線治療の件数は目標値を達成した。また、認定遺伝カウンセラー修士課程修了者の配置と遺伝カウンセリング室の設置を行い、がんゲノム医療連携病院としての取り組みが進まれている。 ・がん相談件数については、新型コロナウイルス感染症の行動制限により、がん相談支援センターの利用者数が減少したことによる。地域がん診療連携拠点病院として積極的な取り組みを行っており、がん入院患者数（実人員）及びコロナ禍の影響を受けたがん相談件数以外の項目では、計画を上回って進捗していることからB評価とする。
<p>⑤提供する医療サービスの充実（高度専門医療）</p> <p>【総 15～17P】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により患者数そのものが減少している中において、急性期病院として重要な指標である手術件数及び全身麻酔件数が前年度と比較して伸びている。また、前立腺がん、直腸がん、胃がんなどに対しては、ロボット支援手術を開始し、域外に出ることなく高度医療を受けることができる環境を整備した。さらに、複数のエックス線エネルギーで行うCT撮影装置（デュアルCT）を導入するなど、悪性腫瘍の診断向上にも取り組んだ。人材育成の観点からは、総合医療センター内で高度医療に携わることができるため、若手医師の育成なども期待される。 ・評価では、気管支鏡検査・処置件数などの4項目が目標を下回ったため本来であればC評価ではあるが、積極的に域内で高度医療を受けることができる体制・環境づくりに取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、全身麻酔件数やMRI撮影件数などが伸びたことを考慮し、B評価とする。
<p>⑥提供する医療サービスの充実（政策医療）</p> <p>【総 18～21P】</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離島医療について、宇久診療所では4月から1名の常勤医師を確保し、更新計画に基づいた医療機器等の更新を行った。黒島・高島両診療所においても、新しい常勤医師1名を確保することができ、島民が安心して利用できる診療体制を維持した。医師を確保できたのも、総合医療センターの離島医療人材確保に対するこれまでの取り組み（都心部への説明会参加など）の結果である。感染症指定医療機関として、引き続き結核病棟を新型コロナウイルス感染症の受入れ専用病棟とし、重症患者の受入れを行いながら一般診療を維持し、公立病院としての役割を果たした。 ・指標を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響により、高島を除いて外来患者数の実績値が目標値を下回っており、本来であればC評価ではあるが、医師を確保し離島医療体制の維持に取り組まれたこと、計画策定段階では想定することができない中、結核病棟では前年度の2倍を超える新型コロナウイルス感染症関連の入院患者を2,414名（延べ）受入れたことを踏まえ、B評価とする。
<p>⑩医療の質の向上（施設、設備の充実）</p> <p>【総 31～32P】</p>	<p>C</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高度専門医療の提供のため、手術支援ロボット及びX線コンピュータ断層撮影装置の導入・更新を行い、施設整備では照明器具改修事業を実施した。世界的な半導体不足により情報システム整備事業は令和4年度に繰り越しとなったものの、計画通りに進捗した。 ・新型コロナウイルス感染症による医療需要の変化を見極めながら、高度専門医療の提供を果たすための設備整備を行い、総合医療センターの役割を十分に果たしたものとしてB評価とする。

小項目評価抜粋（B評価以上又は法人評価と評価者評価に違いがあるもの）

小項目区分	法人	評価者 最終	評価者の評価内容
<p>⑬ 医療の質の向上（安全性の高い信頼される医療）</p> <p>【総 39～42P】</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐世保県北医療圏の中核を担い、第2種感染症指定医療機関として一般診療を維持しながら新型コロナウイルス感染症の対応にあたった。院内感染を防ぐため、対策会議を随時開催し、感染対策の実施や行動規範の改定を行った。さらにホームページで広く感染防止対策に関する情報、お知らせを掲載するなど幅広い呼びかけを行った。 ・重症患者の受入れや陽性患者の分娩に対応し、感染症指定医療機関の使命を十分に果たした。医療安全対策については、医療安全管理者養成研修の受講により、研修を修了した医師が3名、看護師が3名となり、体制の充実が図られた。 ・このほか、インフォームドコンセントの徹底のための説明書・同意書の整備に取り組み、患者中心の医療提供を整備した。指標の院内研修会については、いずれも目標に近い99%の受講率となっている。コロナ禍で一部利用縮小はあったものの、医療従事者の献身的な対応により、地域の医療崩壊を防ぎながら医療提供がされたことは県北地域の中核病院としての役割を十分に果たしていることから、B評価とする。
<p>⑭ 情報提供の充実（分かりやすい保健・医療の情報発信）</p> <p>【総 43～44P】</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により対面での講演会は中止となったが、代替として、Youtubeチャンネルを利用して健康教室の動画配信を行った。また、総合医療センターの最新の動きなどを紹介する広報紙を年4回発行し、医療圏住民に対して、分かりやすく詳細な情報発信がなされた。 ・指標をみると目標を超える視聴回数（参加人数）となっており、コロナ禍の中で工夫した良い取り組みが実践されたことから、B評価とする。

大項目	2 業務運営の改善及び効率化		
小項目	3項目 (C: 3項目)		
合計点	9	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 法人管理運営体制の確立 (適正な法人管理体制の構築)	C	－	C	3
② 法人管理運営体制の確立 (効率的な病院運営)	C	－	C	3
③ 経営管理人材の育成	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①内部統制に必要な契約監視委員会、監事監査に加えて、内部監査を実施した。
- ②毎週、経営会議を開催し、迅速な意思決定を行うことで、診療報酬加算に対応した人員配置や、働き方改革に取り組んだ。また、地方独立行政法人の特性である柔軟性のある予算執行、機動的な病院運営ができた。

大項目	3 財務内容の改善		
小項目	4 項目 (C : 4 項目)		
合計点	12	平均点	3
評価	C <u>概ね計画通り</u>		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市 通常	市 最終	点数
① 経営基盤の確立	C	B	C	3
② 適正な収益と費用 (適正な収益)	C	B	C	3
③ 適正な収益と費用 (適正な費用)	C	－	C	3
④ 予算、収支計画、資金計画	C	B	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

①②③経常収支比率、医業収支比率ともに伸びがみられる。最大の要因は新型コロナウイルス感染症に係る補助金 (30億3千9百万円) であるが、新たな施設基準取得や平均在院日数の短縮への取り組みによる入院・外来診療単価の向上や、医薬品や材料費における継続した価格交渉、経費における委託業務の定期的な見直しや複数年契約の実施などによる節減に取り組んだ影響もあっている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が起こるなか、佐世保県北医療圏における基幹病院としての使命・役割を果たしながら、収益の向上や費用の節減に取り組むことは容易ではないが、積極的に取り組み、概ね計画通りに進捗している。

大項目	4 その他業務運営に関する重要事項		
小項目	3項目 (B: 1項目 C: 2項目)		
合計点	10	平均点	3
評価	C <u>概ね計画通り</u>		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 地域医療構想の実現に向けた取組み	C	－	C	3
② 働き方改革の推進	C	－	C	3
③ 災害時における事業継続性の強化	B	－	B	4

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①新型コロナウイルス感染症の陽性患者受入対応と並行し、佐世保県北医療圏における唯一の3次救急医療機関（救命救急センター）として重症患者の受入も行うなど、継続的な高度急性期・急性期医療の提供に努めている。また、手術支援ロボットなどの高度医療機器を導入・更新し、高度な医療を圏内において受けられる体制整備を行った。
- ②医師の働き方改革の一環として、タイムカード増設による時間外勤務の把握や時間外命令との乖離を管理するなど、時間外勤務の縮減に取り組んだ。また、多職種と連携の上、タスクシフティング・シェアリングを推進を図るなど、積極的に医師を中心とした長時間労働の改善やワーク・ライフ・バランスに取り組んだ。
- ③医療災害である新型コロナウイルス感染症対応のための陽性患者受入体制整備や院内感染対策など危機管理対応に臨み、クラスターが発生した病院や施設などへの人材派遣（看護師）を行った。また、BCP（業務継続計画）の修正や病院機能を維持するための水の確保（地下水）についての検討も進めた。

小項目評価抜粋（B評価以上又は法人評価と評価者評価に違いがあるもの）

小項目区分	法人	評価者 最終	評価者の評価内容
<p>③災害時における事業 継続性の強化</p> <p>【総 62～63P】</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応のため、定期的に災害医療対策本部を開催し、コロナ陽性患者の受入体制の整備や院内感染対策など、新型コロナウイルス感染症に対処するための方策を議論し、危機管理の対応に臨んだ。また、クラスターが発生し施設運営が困難になった病院・施設に対して看護師の人材派遣を行った。 ・災害医療訓練はコロナ禍により中止となったものの、BCP（業務継続計画）の小規模な修正や病院機能を維持するための水の確保について検討を進めた。新型コロナウイルス感染症流行という危機的状況においても、状況に応じた診療提供体制を確保し地域の関係機関と連携した取り組みを行ったことから、計画を上回って対応されたと判断し、B評価とする。